

平成 31 年度 事業計画（案）

社会福祉法人 山陵会

【法人理念】

利用者への思い…かけがえのない時を共に生き、人生を学び共有し後世に伝えます。

家族への思い…大切な方々との縁に感謝します。

職員への思い…お互いの存在を認め助け合い、思いやりと感謝を持ち成長します。

地域への思い…愛と感謝を地域に還元し、地域の健康に貢献します。

【総合的な目標】

平成 30 年度介護報酬改定は 0.54 のプラス改定でしたが、昨今の少子高齢化、労働者人口の減少など財務・労務両面で厳しい介護環境となっております。そんな中で、岐阜県の介護老人保健施設での入居者への虐待事件、鹿屋市においては有料老人ホームで不適切なケアで入居者が複数死亡するなど痛ましい事件が世間を騒がせました。山陵会においては、全ての職員が利用者へ尊敬の念を持ち、精一杯支援に取り組んでいますので、決して起こりえないと信じております。しかし、他人事とは捉えず法人理念の浸透や職員を大切にする風土作りに今後も注力していきたいと考えております。

そこで、31 年度は 30 年度の取り組みを深化させ、成長していく年度と捉えています。施設部門では、利用者の暮らしがより良くなるようコミュニケーションや余暇活動の充実を目指します。また、抱えない介護（ノーリフト）が少しずつ実践できているので更に進めていきたいと思えます。在宅部門においては機能向上、機能維持が重要となりますので、より効果的な機能訓練や生活支援が提供できるよう努力していきます。

平成 31 年 10 月には消費増税に伴う改定も予定されています。中でも 10 年以上のキャリアを積んだ介護福祉士に月額 8 万円アップとなる新処遇改善加算が目玉となっています。これまでの処遇改善加算は全て介護職員のみ支給されていますが、今回の加算分は事業所の裁量によりそれ以外の職員にも分配できる仕組みとなっております。これまで以上に職員への説明責任が求められると思うので、職員に不信感を抱かせないように分配方法等しっかりと検討し、離職防止・職員採用に取り組んでいきます。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① 自立支援・重度化防止に積極的に取り組み

機能訓練の強化、認知症ケアの充実、利用者の自己決定の支援

② 切れ目のない支援

嘱託医、主治医との連携、医療職と介護職のチームケアの推進

サービス事業所間の情報交換

③ 山陵会の理念を体現できる人材の育成

利用者の尊厳、権利擁護の推進

挨拶、言葉遣い、マナーや認知症利用者への適切な接し方の徹底

④ 人材確保策

高校、専門学校卒の新卒者の定期採用を努力する

元気シニア向けの人材バンクを構築し、介護手伝い隊として介護周辺業務への登用

SNS等を活用した採用の継続

働きやすさの向上を図り、離職のない職場作りを目指す

【収益的活動】

① 介護保険事業収入の安定化

取得すべき加算はしっかりと算定する

各事業所における数値目標の達成

② 新規利用者確保策

アウトリーチを行い、必要な方に必要なサービスを提供する

サービスの質を向上し、選ばれる事業所を作る

③ 生産性の向上

人事制度を見直し、全ての職員が数字を意識して働くような仕組み作りの検討

④ 新規事業の展開

他分野との連携を視野に新しいビジネスモデルを構築できるよう検討する

現存サービスのサービス提供量を再調査し、定員の増床や増加を検討する

在宅サービスの新規事業を検討する

【支出的活動】

① 施設補修、改修

既存型特養浴室改修の検討する

デイサービスのトイレ・浴室の改修を検討する

【地域貢献活動】

① みぞべ元気塾の継続運営

低料金でのプログラムの提供、それらの出張講座を行い地域の介護予防・認知症予防の普及活動を行う。

② 地域作りの取り組み

DST（認知症サポートチーム）の継続で、認知症を抱える家族の支援を行う

③ 地域支援の体制作り

『かごしまおもいやりネットワーク』を基盤に、関係機関と連携を図り社会福祉法人として必要な地域ニーズに応じていく

平成 31 年度 事業計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

【総合的な目標】

入所施設においては、これまでの生活が施設に入所してからも変わらないものになるよう、暮らしの継続を目指して支援する。利用者が家族、地域とのつながりが途絶える事の無いように利用者及び家族が安心、安全に生活できるケアを提供する。

地域貢献活動を活発に行い、社会のために奉仕する。

社会福祉法人として、地域住民の福祉を念頭に高齢者介護や認知症予防、介護予防についての知識や技術、健康増進の活動を地域に還元する。

短期入所施設においては、余暇時間等を活用し、個人の能力や嗜好にあったレクリエーションや作業療法を通じて、自宅での生活が継続できるよう支援する。

ご家族の思いをおしはかり、不安や負担の軽減を図り、地域やご家族とのつながりを大切に

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① その人らしい暮らしの実現

日常生活の中で本人の思いをくみ取り希望に沿ったケアを行う。

利用者の個性や嗜好に合わせ、一人ひとり意向に沿ったケアを行う。

利用者が選択できる機会が多く持てることで、その人らしさを引き出す。

② 食を通じた楽しみの支援

地産地消の継続と新しい食空間作りの実施。

調理作業工程、使用食材、献立の見直しを適宜行う。

③ 優しさ、専門性のある人材の育成

毎月の職員研修会で内部研修の実施、老人福祉施設協議会等の外部研修の参加、高齢者福祉研究会等の独自研修に参加させ、キャリアアップに繋げる。

言葉遣いは丁寧語を基本とし、利用者の人権の尊重、権利擁護に努められるよう職員を育成する。

④ 必要な人材を確保する

既存特養の介護職の数を常勤換算で 19.3、短期入所施設の介護職の数を常勤換算で 10.9 確保し、適正な人員配置を検討する。

職員同士が指摘し合える関係作りに努め、職員間の信頼関係を構築し、離職防止に努める。

【収益的活動】

①高水準なベッド稼働率を目指す

従来型特養 99.0%、ショートステイ 85%の目標を達成する。

入所申込者の定期的なフォローや居宅介護支援事業所への営業活動や関係作りを行う。

②質の高いサービスを提供し、加算による収益増を目指す

現状算定できている加算については、継続して算定する。

平成 30 年度に取得予定であった加算として褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算について 2019 年度中に検討や必要な準備を行う。

【支出的活動】

①良いサービスが経費削減に繋がるということを意識する

排泄用品の適正利用により費用削減を目指す。

利用者の生活に合わせた勤務体制の検討を行なう。

②ノーリフトの推進

利用者、介護者双方に優しいノーリフトのための器具・備品の購入

【地域貢献活動】

近隣の学校の運動会やゲートボールに利用者と共に参加し馴染みの関係作りに努める。

平成 31 年度 研修計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

	研修項目	研修内容
4 月	ノーリフト・持ち上げない介護方法について	職員の腰痛予防の観点から、職員・利用者双方に優しい介護技術を学ぶ 自施設でのノーリフトへの取り組み
5 月	事故発生時の対応について	事故発生時の対応や連絡方法、その後の説明やリスクマネジメントについて学ぶ
6 月	フィジカルアセスメント	介護におけるフィジカルアセスメントの意義、高齢者によくある疾患や症状、観察ポイント等を学ぶ。
7 月	感染症及び食中毒予防について	感染症及び食中毒の予防について学び、事業所内の感染、まん延を防ぐ
8 月	災害時のリスクマネジメント	災害時における管理栄養士の役割や備蓄品の管理について。
9 月	スキルアップ研修会	認知症を持つ人とのコミュニケーションについて、実際に役立つスキルを学ぶ。
10 月	人材育成研修	対人援助の現場で活用できる、聴く・伝える・共感する等の技術を学ぶ。
11 月	認知症ケア	原因疾患で基礎から理解する正しい認知症患者へのアセスメントの視点と対応法を学ぶ。
12 月	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの中でも特に難しいとされるスピリチュアルペインに対するケアについて様々な支援方法を学ぶ。
1 月	セルフマネジメント	集中力や創造性を高める効果が科学的に認められているマインドフルネスについて学ぶ。
2 月	医療的ケア	摂食・嚥下リハとリハ栄養プロセスを症例で学び、フレイル・サルコペニアに対する嚥下リハの実践について理解する。
3 月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う

* 外部研修については、必要性を検討し参加する。

* 外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 31 年度 年間行事計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

4 月	上旬	開園記念日・観桜会	
	中旬	火災想定総合避難訓練・高齢者福祉研究会	
	下旬	藤のお花見・入所検討委員会	* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
5 月	上旬	端午の節句	
	中旬		
	下旬	チャレンジデー	* 法要法話（高陵寺 加来先生）
6 月	上旬	家族交流会	
	中旬	あじさい見物	
	下旬		* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
7 月	上旬	陵南幼稚園七夕交流・竹子みどりの少年団交流	
	中旬	高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会	* 法要法話（高陵寺 加来先生）
8 月	上旬	戦争体験を語り継ぐ会	
	中旬	お盆法要・夕涼み会	
	下旬	火災想定夜間集合訓練	* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
9 月	上旬		
	中旬	敬老祝賀会	
	下旬	彼岸法要・十五夜	* 法要法話（高陵寺 加来先生）
10 月	上旬		
	中旬	高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会・コスモス見物	* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
11 月	上旬	ほぜ祭り	
	中旬	紅葉狩り・七五三	
	下旬		* 法要法話（高陵寺 加来先生）
12 月	上旬		
	中旬		
	下旬	クリスマス会・忘年会・餅つき	* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
1 月	上旬	初詣・七草	
	中旬	鏡開き・高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会	* 法要法話（高陵寺 加来先生）
2 月	上旬	節分の豆まき	
	中旬		
	下旬		* 法要法話（照明寺 藤谷先生）
3 月	上旬	桃の節句（ひなまつり）	
	中旬	彼岸法要	
	下旬		* 法要法話（高陵寺 加来先生）

2019年度 事業計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

【総合的な目標】

これまでの生活が施設に入所してからも変わらないものになるよう、暮らしの継続を目指して支援する。利用者が家族、地域とのつながりが途絶える事の無いように利用者及び家族が安心、安全に生活できるケアを提供する。

地域貢献活動を活発に行い、社会のために奉仕する。

社会福祉法人として、地域住民の福祉を念頭に高齢者介護や認知症予防、介護予防についての知識や技術、健康増進の活動を地域に還元する。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

①その人らしい暮らしの実現

日常生活の中で本人の思いをくみ取り希望に沿ったケアを行う。

全員が同じ生活ではなく一人ひとり意向に沿ったケアを行う。

利用者が選択できる機会が多く持てることで、その人らしさを引き出す。

②食を通じた楽しみの支援

地産地消の継続と新しい食空間作りの実施。

③優しさ、専門性のある人材の育成

毎月の職員研修会で内部研修の実施、老人福祉施設協議会等の外部研修の参加、高齢者福祉研究会等の独自研修に参加させ、キャリアアップに繋げる。

昨年同様、各ユニットで当月の目標を掲げ、達成できるようチーム力を高めていく。

④必要な人材を確保する

ユニットの介護職の数を常勤換算で17確保する。

職員同士が指摘し合える関係作りに努め、職員間の信頼関係を構築し、離職防止に努める。

【収益的活動】

① 高水準なベッド稼働率を目指す

安定した事業経営のために年間ベッド稼働率 99.5%を目標として達成する。

入所申込み者の定期的なフォローや居宅介護支援事業所への営業活動や関係作りを行う。

職員としても一人一人の生活スタイルを把握し事故による入院を防ぐ。

② 質の高いサービスを提供し、加算による収益増を目指す

現状算定できている加算については、継続して算定する。

30年度に取得予定であった加算として褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算について31年度中に検討や必要な準備を行う。

【支出的活動】

- ① 良いサービスが経費削減に繋がるということ意識する
排泄用品の適正利用により費用削減を目指す。
利用者の生活に合わせた勤務体制の検討を行なう。
- ② ノーリフトの推進
利用者、介護者双方に優しいノーリフトのための器具・備品の購入

【地域貢献活動】

近隣の学校の運動会やゲートボールに利用者と共に参加し馴染みの関係作りに努める。

2019年度 研修計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

	研修項目	研修内容
4月	ノーリフト・持ち上げない介護方法について	職員の腰痛予防の観点から、職員・利用者双方に優しい介護技術を学ぶ 自施設でのノーリフトへの取り組み
5月	事故発生時の対応について	事故発生時の対応や連絡方法、その後の説明やリスクマネジメントについて学ぶ
6月	フィジカルアセスメント	介護におけるフィジカルアセスメントの意義、高齢者によくある疾患や症状、観察ポイント等を学ぶ。
7月	感染症及び食中毒予防について	感染症及び食中毒の予防について学び、事業所内の感染、まん延を防ぐ
8月	災害時のリスクマネジメント	災害時における管理栄養士の役割や備蓄品の管理について。
9月	スキルアップ研修会	認知症を持つ人とのコミュニケーションについて、実際に役立つスキルを学ぶ。
10月	人材育成研修	対人援助の現場で活用できる、聴く・伝える・共感する等の技術を学ぶ。
11月	認知症ケア	原因疾患で基礎から理解する正しい認知症患者へのアセスメントの視点と対応法を学ぶ。
12月	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの中でも特に難しいとされるスピリチュアルペインに対するケアについて様々な支援方法を学ぶ。
1月	セルフマネジメント	集中力や創造性を高める効果が科学的に認められているマインドフルネスについて学ぶ。
2月	医療的ケア	摂食・嚥下リハビリ栄養プロセスを症例で学び、フレイル・サルコペニアに対する嚥下リハビリの実践について理解する。
3月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

2019年度 年間行事計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

4月	上旬	開園記念日・観桜会	
	中旬	火災想定総合避難訓練・高齢者福祉研究会	
	下旬	藤のお花見・入所検討委員会	*法要法話（照明寺 藤谷先生）
5月	上旬	端午の節句	
	中旬		
	下旬	チャレンジデー	*法要法話（高陵寺 加来先生）
6月	上旬	家族交流会	
	中旬	あじさい見物	
	下旬		*法要法話（照明寺 藤谷先生）
7月	上旬	陵南幼稚園七夕交流・竹子みどりの少年団交流	
	中旬	高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会	*法要法話（高陵寺 加来先生）
8月	上旬	戦争体験を語り継ぐ会	
	中旬	お盆法要・夕涼み会	
	下旬	火災想定夜間集合訓練	*法要法話（照明寺 藤谷先生）
9月	上旬		
	中旬	敬老祝賀会	
	下旬	彼岸法要・十五夜	*法要法話（高陵寺 加来先生）
10月	上旬		
	中旬	高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会・コスモス見物	*法要法話（照明寺 藤谷先生）
11月	上旬	ほぜ祭り	
	中旬	紅葉狩り・七五三	
	下旬		*法要法話（高陵寺 加来先生）
12月	上旬		
	中旬		
	下旬	クリスマス会・忘年会・餅つき	*法要法話（照明寺 藤谷先生）
1月	上旬	初詣・七草	
	中旬	鏡開き・高齢者福祉研究会	
	下旬	入所検討委員会	*法要法話（高陵寺 加来先生）
2月	上旬	節分の豆まき	
	中旬		
	下旬		*法要法話（照明寺 藤谷先生）
3月	上旬	桃の節句（ひなまつり）	
	中旬	彼岸法要	
	下旬		*法要法話（高陵寺 加来先生）

平成31年度 事業計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

【総合的な目標】

利用者のする、できる事を増やす事を促します。

利用者同士の交流が図れるよう環境設定やレクリエーションを行います。

可能な限り自力で歩く、動く事を目標に機能訓練やレクリエーションを行います。

多彩なメニューを用意し自己決定を行う事で意欲の向上に繋がります。

認知症ケアに力を入れ、認知症の利用者が安心できる事業所作り、家族が悩みを打ち明けられ共に在宅介護を支えていける事業所作りを行います。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① 機能訓練により、生活動作改善に結びつける

筋力・バランス能力向上を目指し、可能な限り自力で歩く・動く事を目標にします。

利用者の状態に合わせて頻度や負荷量を調整し、個別・グループで機能訓練を行います。

車の乗降、移動、入浴、食事、トイレ動作等、利用者の『する・できる』が増えるよう促します。

② 認知症ケアの実践

認知症のある利用者やそれ以外の利用者間のコミュニケーションを促し、自然な笑顔や会話を引き出します。

運動や脳トレなど積極的な関わりを持ち、認知症の方が快と感じる支援を行います。

③ 笑顔、笑い声のあるプログラム

レクリエーションでは利用者が積極的に楽しむ姿や生活の質の向上に繋げる事を目標に、その方の「やってみたい」という気持ちを尊重して希望に沿ったメニューを考えます。

④ 家族支援

家族会の開催

年4回の広報誌の発行

日常的な家族とのコミュニケーションにより、身体的・精神的サポートを行います。

⑤ 人材育成

毎月開催の職員研修会の参加率の向上や外部研修への参加、認知症介護実践者研修への参加などを通して、質の向上を図ります。

【収益的活動】

① 定員を拡大し、収益をアップする

利用定員を 40 名から 45 名に増員し、収益の向上を図る。

白梅利用者の受け入れを行い、利用者・家族の要望に合わせ、提供時間を柔軟に対応する。

② 加算の取得

口腔機能向上加算、栄養改善加算、認知症加算の算定を行う。

今年度も最低 1 名は認知症実践者研修等を修了する。

③ 介護保険外サービスの提供

自主事業として「自費デイサービス事業」も継続して行う。

【支出的活動】

① 重度化に対応した事業所改修

中重度者の増加のため、身障トイレの増設を検討する。

個浴や個室の必要性を検討する。

畳スペースの活用を再考し、利用者が主体的に動ける環境作りを検討する。

② 機能訓練機器の充実

必要なりハビリ機器を選定し、効果的な機能訓練を提供する。

【地域貢献活動】

① 利用者と雑巾等を作成し、小学校に寄贈する。

平成31年度 年間研修計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

	研修項目	研修内容
4月	法人の倫理、理念について	法人の倫理、理念について学ぶ
5月	認知症の理解と対応	事例検討・よりよいケアを行うために
6月	リスクマネジメントについて	去年度のインシデント・アクシデントの反省、事故予防について
7月	苦情・相談について	苦情・相談のマニュアルの確認 事例検討等
8月	個人情報の保護とコンプライアンス	個人情報の取り扱い、利用方法・他事業所との連携について
9月	職員のメンタルヘルスについて	外部講師依頼検討
10月	相談援助技術について	直接援助技術や間接援助技術などについて学ぶ
11月	感染症予防	感染症の種類と予防方法
12月	虐待防止等の権利擁護	利用者のプライバシー保護と虐待防止に関する知識、身体拘束等について
1月	褥瘡予防	褥瘡の知識や予防方法、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等について
2月	救急救命 AEDの使い方	AEDの使い方、心肺蘇生法など緊急時に対応できるように学ぶ
3月	フォーマル・インフォーマルサービスについて（総合事業も含む）	地域の中のボランティア活動などの社会資源について学ぶ

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成31年度 年間行事計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

4月	上旬	さくら見物（花見弁当）
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	苗物買い
5月	上旬	選択レクリエーション
	中旬	グランドゴルフ
	下旬	介護者教室
6月	上旬	口の健康・食中毒
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	七夕飾り作り
7月	上旬	そうめん流し
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	夏祭り
8月	上旬	買い物行事
	中旬	盆団子作り
	下旬	体を動かそう
9月	上旬	かかし祭り見学
	中旬	敬老会
	下旬	ぶどう狩り
10月	上旬	運動会
	中旬	秋の音楽会
	下旬	選択レクリエーション
11月	上旬	菊祭り見学
	中旬	文化祭
	下旬	介護者教室
12月	上旬	買い物行事
	中旬	忘年会
	下旬	ゆく年くる年
1月	上旬	神宮参拝
	中旬	正月遊び
	下旬	新春グランドゴルフ大会
2月	上旬	節分・豆まき
	中旬	茶話会
	下旬	テーブルレクリエーション
3月	上旬	ひなまつり
	中旬	演芸会
	下旬	花見

平成 31 年度 事業計画（案）

フラワーホームホームヘルプサービス

【総合的な目標】

現在、日本では急速に高齢化が進んでおり、鹿児島県における霧島市の高齢化率は他の市町村に比べ低い方ではある。しかし市街地である国分・隼人と違い、溝辺町は身寄りがないまたは家族がいても遠方や疎遠で支援の協力が困難であり、孤独に生活している高齢者が増加していると肌で感じる。こうした状況を踏まえ、30年度の改正で生活援助中心の訪問介護の単価が引き下げられたが、個々の状況によっては、1口に複数回訪問が必要な方々がいる。担当ケアマネをはじめショートステイ、デイサービス、福祉用具など在宅に関わるあらゆる部署との連携を徹底し、利用者が安心・安全に在宅生活ができるよう努めていきたい。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① 残存機能を活かし、少しでも自立した在宅生活が送れるよう援助する

過剰介護とならぬよう、出来る範囲のことはして頂き、声かけしながら残存機能を引き出していく。

その中で、できる事への喜びや自信につながり、同時に動く意欲や楽しみを喚起するきっかけ作りができるよう支援する。

② コミュニケーションによる社会的孤立感の解消

家の中に長時間独りでいることの多い高齢者にとって、ヘルパーの訪問が孤立感の解消につながっているので、コミュニケーションを大切にされた支援をする。

③ 家族のレスパイトケア

身体介護、生活援助を通して家族の身体的・精神的な介護負担の軽減を図る。困っていることはないか、介護における助言など行い、家族との信頼関係を築いていけるようにする。

④ 質の高いケアの提供

ミーティングや随時情報の共有をする。勉強会では、対応を工夫しての成功例や反対にうまくいかなかった失敗例、またヒヤリハットなど介護予防につなげる為の事例を挙げて、実務に役立てることができるよう意見交換し、お互いを高め合い統一した質の良いケアが継続できるようにしていく。

⑤ 人材の確保策

身体介護、生活援助などヘルパー一人ひとりに合った働き方の支援

30～40代のヘルパー採用を検討し、主任として育成していく

【収益的活動】

① 現利用者の継続的利用と新規利用者の獲得

コミュニケーションを図る中で状態変化にいち早く気づき、医療と福祉が連携することで在宅生活の維持につなげる。

居宅介護事業所、地域包括支援センターとの連携を図り、新規の利用者の獲得に努める。

② 保険外事業の提供

総合事業においては、自立支援の観点から、利用者のできる事を基本としたサービスの提供に努める。また、非該当となった利用者についても保険外の自主事業として対応し、在宅生活を支えていく。

【支出的活動】

① 備品購入の見直し、こまめな電源オフを心がける。

② あらゆる身近なものから『もったいない』を基に節約に努める。

【地域貢献活動】

① 地域の高齢者のサポート等

利用者宅の隣近所に住む高齢者等が困っていたら、ゴミ出しや軽微な困りごとのお手伝いをする。

② 地域の行事参加への連絡調整

地域の行事参加（老人会、敬老会、家族会）のために利用者とその家族、及び地域の方々と日時・場所の確認などの連絡調整を行う。連絡を取り合う中で地域の方々とヘルパーの交流も図っていく。

平成31年度 研修計画（案）

フラワーホームホームヘルプサービス

	研修項目	研修内容
4月	接遇について	接遇マナー、言葉遣いについて
5月	認知症ケア	認知症の症状、対応のしかたについて
6月	調理のしかた	減塩調理、治療食・介護食について
7月	熱中症・脱水予防	熱中症の症状、対応について
8月	食中毒について	食中毒の予防のポイント殺菌・除菌の方法
9月	事故発生防止	ヒヤリハットの事例による対応の検討
10月	感染症の予防	感染症の種類、感染経路、予防策
11月	個人情報・プライバシーの保護	個人情報の取り扱いについて
12月	ノロウイルス・インフルエンザ	かからないための予防、対策
1月	褥瘡の理解と予防	褥瘡の知識、予防方法など
2月	緊急時対応について	事故発生時の対応、連絡の手順など
3月	高齢者虐待・身体拘束	虐待の種類および身体拘束について理解する

*外部研修については、必要性を

平成31年度 事業計画（案）

フラワーホーム居宅介護支援事業所

【総合的な目標】

フラワーホーム居宅介護支援事業所は介護保険の基本理念である「自己決定の尊重」「生活の継続」「自立支援」を基本とし、利用者および家族の生活状況や課題、環境等を把握し利用者の尊厳を第一に考え、医療・福祉・行政・各関係機関等との連携を図り適切で迅速な対応を心がけ信頼できる事業所を目指す。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

- ① 資質向上のため必要な研修に参加し自己評価を行いながら、認知症やターミナル、困難事例等に対応できるスキルを持つ。
- ② 個々の健康に留意し事業所内のチームワークを高め人員基準の維持を図る。

【収益的活動】

- ① 特定事業所加算（Ⅱ）の算定事業所として法令厳守し減算とならないようにする。
- ② 医療との連携加算等を確実に算定できるように連携や書類作成を行う。

【支出的活動】

- ① 個人情報に配慮された相談しやすい環境整備に必要な備品購入
- ② 特定事業所加算の要件である事例検討会や研修への参加経費

【地域貢献活動】

- ① 地域の方々にとって身近な相談窓口として機能するように努める。
- ② 事業所所在地周辺の清掃や花いっぱい活動を行う。

平成 31 年度 研修計画（案）

フラワーホーム居宅介護支援事業所

	研修項目	研修内容
4月	制度改正・法令厳守について	制度改正内容について 事業所加算の要件に必要な書類等の確認 公正中立なケアマネジメント
5月	認知症支援について	問題解決につなげるケアマネジメントの 専門性を高める
6月	事例検討会	困難事例等、課題分析のアセスメント力の 技能向上
7月	難病支援について	医療ニーズの高い方への支援、対応力向上
8月	成年後見制度について	高齢者虐待 障害者虐待等の権利擁護に ついて
9月	事例検討会	他居宅支援事業所との合同研修 効果的な医療との連携
10月	苦情対応について	苦情に対してのマニュアルや改善方法の 検討
11月	障害福祉制度について	障害福祉サービスの内容 特定相談支援事業者との連携
12月	事例検討会	居宅サービス計画書の原案について内容を 相互に深め実現可能なものとする
1月	地域包括ケアについて	共生社会について 各機関等の連携
2月	相談援助技術について	聴き方などのコミュニケーション能力
3月	事例検討会	他居宅支援事業所との合同研修 他職種との連携

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 31 年度 事業計画（案）

地域包括支援センター

【総合的な目標】

地域包括ケアシステムは、住民の尊厳ある自立した生活を実現することを理念として、その地域の特性を活かし、さまざまな資源を有機的に組み合わせて構築されるものである。地域包括ケアの推進に向けた中核的な機関である地域包括支援センターの役割はとて大きい。そのため今あるサービスだけでは支えられない方々に対して、地域住民のニーズを把握し必要な社会資源を発見し開発、結び付けていかなければならない。また高齢者に留まらず子どもや障がい者などの世代や特徴を超えた地域共生社会の実現に向けて各関係機関と連携を取りながら取り組んでいくことも重要になってくる。総合相談窓口としての役割を担いながら、地域包括ケアシステム・地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

- ① 総合相談窓口として、実態把握にて地域を回り顔なじみの関係作りを行う。
- ② 溝辺圏域にあるサービス事業所との連携・強化を図る。
- ③ 介護者の抱えている悩み事などを打ち明けられる場として家族交流会を企画する。
- ④ 様々な相談に対応できるように研修会などを通じてスキルアップを図る。

【収益的活動】

- ① 委託費による事業
包括 2 名体制を維持し、霧島市の委託費で運営する

【支出的活動】

- ① 介護者が悩みや不安の相談、介護者相互の交流の場を提供する

【地域貢献活動】

- ① 介護・福祉の窓口機能
常に開かれた相談機関としての役割を果たし、地域住民の困りごとに対応する

平成31年度 研修計画（案）

地域包括支援センター

	研修項目	研修内容
4月		
5月	地域包括・在宅介護支援センター総会	
6月		
7月		
8月	包括主催介護支援専門員研修	
9月	県地域包括・在介職員研修会	
10月		
11月		
12月		
1月	包括主催介護支援専門員研修	
2月	県地域包括・在介職員研修会	
3月		

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成31年度 年間行事計画（案）

地域包括支援センター

4月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
5月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	鹿児島県地域包括支援センター総会・あしたば会
6月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
7月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
8月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	包括主催介護支援専門員研修・あしたば会
9月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
10月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
11月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
12月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
1月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	包括主催介護支援専門員研修・あしたば会
2月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会
3月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	民生委員定例会
	下旬	運営推進会議・あしたば会

平成31年度 事業計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

【総合的な目標】

小規模多機能ホームふもとの家は、家庭的な環境の中で、利用者一人ひとりを尊重し、役割や生きがいを持ってこれから先も住み慣れた地域の中、住み慣れた家で生活し続けられるように支援していく。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① 本人の思いを実現するケア

利用者個々の担当職員が中心となり、これまでの生活歴や地域とどのような関係性を構築していたのか情報収集を行い、本人の『～したい』を実現していく。

② 離職防止

利用者の重度化により、職員負担も増えているので、職員へのケアを検討し、働きやすい職場作りを目指す。

定期的に面談を行うなど、安心して仕事ができるよう環境整備に努めていく。

スキルアップを目指す職員には、勉強会などの情報提供を行い、研修に参加出来るよう勤務調整を配慮する。

【収益的活動】

① 継続的支援による安定経営を目指す

重度化しても馴染みの関係性を大切にし、看取り介護にも対応できるようスキルアップを含めた体制作りを行う。

② 法人内後方支援との連携

重度化すると必然的に泊りが増え、経済的負担も増加する。そのようなケースにおいては無理せず介護が受けられる施設入所へ繋ぎ、利用者・家族の安心を大切にする。

【支出的活動】

① 地域交流活動の継続

地域交流活動『お茶ったもんせ』は今年で10周年を迎える。継続開催を目指し、地域の方とのつながりを構築し、活動の輪を広げていく。

② 備品管理、保全

電化製品や食器等の劣化による買い替えが増えているが、備品を大切に、支出を抑える。

【地域貢献活動】

① 運営推進会議の活用

運営推進会議で地域の困りごとを聞き活動する。事業所だけで対応できない場合は法人で共有し、地域のためにできることをしていく。

② 地域の集いの場の提供

Aコープの移動販売車が毎週ふもとの家に立ち寄るため、地域住民に広報し、利用してもらおう。

近くの保育園児たちとの交流も増やしていき、あづまやの有効利用を検討していく。

平成31年度 研修計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

	研修項目	研修内容
4月	基本的な介護技術に関する研修	認知症高齢者とのコミュニケーション方法や自立支援について学ぶ。
5月	食事や嚥下に関する研修	糖尿病や高血圧、嚥下障害の方の食事の方法、口腔ケアについて学ぶ。
6月	健康管理や薬の効能に関する研修	事業所の利用者がよく飲んでいる薬の効能、副作用について学ぶ。高齢者の病気について知る。
7月	小規模多機能型居宅介護について	小規模型居宅介護に期待される様々な事業所の取り組みについて学ぶ。
8月	利用者の尊厳の実践的展開に関する研修	尊厳とは何か？理論間をはじめ、対人援助技術に関する専門的な知識・技術価値観を学ぶ。
9月	介護記録の書き方に関する研修	ライフサポートワークの意義、活用法、プランに基づく記録の仕方など学ぶ。事故報告書やヒヤリハットの書き方。
10月	認知症及び認知症ケアに関する研修	認知症の定義や中核症状、周辺症状を理解し認知症高齢者への対応方法を学ぶ。
11月	非常災害時の対応に関する研修	非常災害時の避難誘導、連絡網等について学ぶ。
12月	感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修	感染症及び食中毒の発生要因や種類について学び、事業所内の予防策や蔓延防止策を徹底する。
1月	プライバシー保護の取り組みに関する研修	ケース記録の取り扱いや日常のケアにおけるプライバシーに配慮した声のかけ方。
2月	事故発生等緊急時の対応に関する研修	心肺停止、転倒事故、誤嚥・誤嚥事故等発生時の対応について学ぶ。
3月	身体的拘束等の排除のための取り組みに関する研修	身体拘束がもたらす弊害を理解し、排除に向けたケア方法を学ぶ。高齢者虐待防止法を学び、人権意識を再確認する。

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成31年度 年間行事計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

4月	上旬	桜の花見
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
5月	上旬	藤の花見 照明保育園とのあく巻き作り
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
6月	上旬	梅干し作り
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
7月	上旬	照明保育園との七夕作り
	中旬	ふもとの家夏祭り
	下旬	お茶ったもんせ
8月	上旬	そうめん流し
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
9月	上旬	
	中旬	敬老会
	下旬	おはぎ作り
10月	上旬	照明保育園運動会
	中旬	山田の案山子見学
	下旬	お茶ったもんせ
11月	上旬	ほぜ祭り
	中旬	紅葉狩り
	下旬	お茶ったもんせ
12月	上旬	
	中旬	門松、しめ縄作り
	下旬	お茶ったもんせ 忘年会 照明保育園児との餅つき
1月	上旬	
	中旬	神宮参拝
	下旬	お茶ったもんせ
2月	上旬	節分
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ 梅の花見
3月	上旬	
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ ぼた餅作り

平成 31 年度 事業計画（案）

隠居長屋ろんち

【総合的な目標】

医療制度改革においても国は在宅医療に舵を切っており、今後医療機関においてもますます早期の退院が進められていくこととなる。一方で高齢者やそれを介護する家族は在宅での暮らしに不安を抱えている。しかし、特養に入所するには状態が軽度であったり、経済的に他の施設を選択することが困難な高齢者が地域には多数存在している。隠居長屋ろんちでは、引き続きそのような方々を対象に低額の住宅を提供し、できるだけ長く地域での暮らしが続けられるように支援していきたい。また、それだけでなく入居者相互の助け合いや地域住民と関わりを持つ活動を通して、自分の存在意義や生きる喜びを得られるような暮らしを支援する。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

① 入居者同士の助け合いの促進

季節に応じた郷土料理を職員、入居者、地域住民と一緒に作り传承する。

【収益的活動】

- ① 家賃収入は現規約のままとし、入居者に負担増を強くない住宅環境を今後も提供する。
- ② 地域の認知症予防、介護予防拠点として考えているみぞべ元気塾の食堂機能として活動し、利用者への食事提供を通して収入を得られるようにする。

【支出的活動】

- ① 調理員の配置が必要となり、人件費支出をする。

【地域貢献活動】